



児童同士が学び合う

グローバルクラスを設け、児童同士が学び合う探求型の学びに力を入れる。

香港日本人学校香港校

校長 山崎秀哲さん

——日外協のアンケート調査では、日本人の海外駐在員はかなり減っているという結果が出ています。香港はどうでしょうか。

本校には小学部 209 人、中学部 130 人の児童生徒がいます。常に転出入は多いですが、事業の撤退や縮小が原因で駐在員やそのご家族が帰国という話はあまり聞きません。ただ、3週間の隔離があるため、お子さんを含めたご家族は帯同しないケースも増えているようです。

——隔離を3週間も義務付けられると、日本への一時帰国も難しくなりますね。香港へ戻るのは大変そうです。

中学部の3年生は2学期の後半には日本での受験に備えて多くの児童が帰国します。コロナ禍が始まって以来、試験が終わってもこちらへは戻らず、そのまま日本で卒業を迎える生徒が増えています。小学部でも日本で中学受験する児童は、ほとんど香港へは戻ってきません。

——親御さんも一緒ですか？

お父さんは仕事があるのでこちらに残らなければなりません。ほとんどの場合、お母さんと

お子さんだけが日本に帰国します。一方、受験のタイミングに合わせてご家族で帰国される場合もあります。



校舎（正門）

——オンライン授業は行っていますか？

2020年度はほぼオンラインでした。全校そろって登校できたのは200日のうちわずか50日だけ。2021年度は4月から5月にかけて約3週間オンラインで授業をして以降は、年末いっぱいまで市中感染はゼロだったので、対面で行うことができました。ところが、今年に入りオミクロン株による感染が拡大したため、再びオンライン授業に切り替えています。

——「グローバルクラス」ではどのような授業を？

小学部の4～6年生の各学年に1クラス20人のグローバルクラスを設けています。2016年にスタートして今年で6年目になります。

通常学級の授業内容は、日本の学習指導要領に基づいているので、日本の小学校とほぼ同じです。グローバルクラスもそれほど変わりません。ただ、日本人と外国人の2人担任制になっていて、外国人の教員が算数と理科、図工を英語で教えています。授業の進め方は日本と同じで、日本の教科書の英語版を使います。

——外国人教員は香港の方ですか？

香港生まれの人とか、英国出身者など様々です。日本語ができる必要はないということで採用しています。

日本人学校の特色を活かした教育を行いながら、グローバルクラスでは英語力だけでなく、新科目「グローバルスタディーズ」に力を入れています。